

立山町歴史交流ステーション
日なた

長林館文庫 長島勝正コレクション展

— 富山県文化財調査委員・長林館主人 長島勝正の前半生 —



令和7年度館蔵新資料紹介(3)

展示解説

立山町歴史交流ステーション日なた
令和8年3月



立山町日なた

展示解説

長島勝正（1904-1990） 富山県入善町栲山生れ。福野農学校、東京美術学校彫刻科卒業。第10回帝展入選。富山に戻った後は、栲山農会会長、栲山村村長、入善町企画室長・保健衛生課長、泊高等学校教員等を勤めた。

富山県文化財調査委員として、美術史・仏教美術史家として県内美術・文化財の保護振興に努め、立山信仰に関する重要文化財の海外流出を食い止めるなどした。富山県史編纂や県内地方史編纂にも多く携わった。

勝正氏の遺品は、2025年立山町に寄付された。

長林館・山静園 栲山の生家は、代々武右衛門を名乗る豪農家で、勝正氏はその九代目であった。長島家は「長林館」と呼ばれた。代々収集された書籍（和書など）は、勝正氏の代になって収集が加速し、「長林館文庫」と名付け、勝正氏はのち「長林館主人」と名乗った。

書物には「長林館文庫」の朱印を押し、番号を付けて台帳に整理した。長島家の使用人がこの作業を行なった。弟美武氏も農業関係の書籍を収集し、長林館文庫に加えた。この作業は、勝正氏が栲山を離れるまで続いた。

勝正氏は、生家に書庫やアトリエを設けた。「山静園」と呼ぶ離（はなれ）があった。勝正氏はこの名称を好み、「山静園草堂」と印刷した原稿用紙などを使ったり、歌詠みに用いた。

長島勝正氏コレクション「長林館文庫」

勝正氏が保有した書籍・作品・仏教関係資料・記録類等は総数約12,000点にのぼる。半数を占める書物・雑誌類には、富山県内図書館に所蔵のない貴重な仏教・工芸・民俗などの文化財関係書籍が多い。

また日本各地社寺建築・仏像などの絵葉書や、家族も協力して収集した観光絵馬等のコレクションも貴重である。

勝正氏の収集品は、「長林館文庫」と名付け、今後立山町が保管する。

勝正氏自筆原稿

コレクションの中には、勝正氏が最初に執筆した論考の手書き原稿や、未掲載とみられる論考が含まれていた。

勝正氏は、1927年（昭和2）東京美術学校五年生の4月、奈良方面の修学旅行に参加した。その行程は、『東京美術学校校友会月報』26巻1号（6月）の「四月十四日 第三日 午前の部」において、東大寺などを分担執筆した。これが勝正氏最初の著述とみられる。

その後同月報26巻3号（9月）に、「浄土教の美術（修学旅行報告）——第一部阿弥陀堂建築——」の論考を掲載した。これが勝正氏最初の論考とみられ、この手書き原稿と挿図写真の原版がある。

またその後書いたとみられる『三 阿弥陀仏像』は、罫紙全165丁にも及ぶ膨大な論考の手書き原稿であるが、この掲載先は未確認である。